



遊 筆

労働問題に寄せて

中窪 裕也

一橋大学大学院法学研究科 教授

Born from Fire!

この春、アメリカでも新型コロナウイルスの感染が急激に拡大し、特にニューヨークが大変な状況となった際に、同州のアン德里ュー・クオモ知事が連日のようにテレビのニュースに登場した。私と同じ1957年生まれの民主党員で、2011年1月より州知事をしているが、未曾有の危機の中、冷静ながらも人間味あふれる言葉で人々に語りかけ、人気が急上昇したといわれる。

彼の父親であるマリオ・クオモも、かつて3期にわたってニューヨーク州の知事を務めていた。私にとって、この父クオモ知事の名前は、大学の研究室の壁に貼ってある1枚のポスターと結びついている。1992年の3月、労働時間法制の調査でブルックリンにあるニューヨーク州労働省のオフィスを訪問した時に目に止まり、対応いただいた方に、素晴らしい、ということ、後でわざわざ送ってくれたものである。

当時のクオモ知事が、州労働省の役割をアピールするために作らせた一連のポスターの1枚であるが、何よりも目を引くのは、縦長の黒の下地の中央の枠内に浮かび上がる、古い大きな白黒写真である。レンガ造りの建物の前に、熱で曲がってしまったような金属製の避難ハシゴがぶら下がっている。ポスターの下部には、中央に消防士たちが消火活動をする白黒写真があり、その両側に白い文字で説明の文章が書かれている。そして最上部には、ニューヨーク州労働省の名前のうち、"LABOR"という言葉が金色に大きく輝き、中央の写真の下には、やはり大きな金色の文字で、"Born from Fire!"と書かれている。

これは、1911年3月25日にニューヨーク

で発生した有名な工場火災 (Triangle Shirtwaist Fire) を描いたものである。ビルの上層階にあったブラウスの縫製工場で、経営者が安全上の問題を放置し、出口の扉に鍵をかけるなどしていたため、146人も労働者(ほとんどが移民の若い女性)が犠牲となった。これをきっかけに、職場の安全衛生基準や最低賃金などの規制が定められ、それらの施行のために州の労働省が創設されたのである。また、労働組合の運動も盛り上がり、アメリカ労働史の中でも重要なエポックとなった。ちなみに、このビルは、マンハッタンのグリニッジ・ビレッジに現在も残っており、ニューヨーク大学の施設として使われている。

そのような歴史を考えれば、ポスターが「格好いい」というのは不謹慎であろうが、センスの良さ、強い訴求力、そして過去から現在を考えさせる奥深さに、感嘆を禁じえない。父クオモ知事は、民主党の中でもリベラル派の巨頭で、特に1992年の大統領選挙の際には有力候補との呼び声が高かったが、出馬を逡巡しているうちに機を逃してしまった。同年7月の民主党大会で、ビル・クリントンを候補者として紹介する演説を行う姿をBS放送でみていたが、まことに立派な堂々たる雄弁で、なぜこの人が候補者にならないのか、と思ったのを今でも覚えている。今年の11月にはまた大統領選挙があるが、焼け野原のようになってしまったアメリカの政治状況を立て直すために、ぜひとも真摯で責任ある人物に当選してほしいものである。

(なかくぼ・ひろや)